

柏崎刈羽原発の再稼働の危険性くつきり 新潟大学名誉教授の立石雅昭さんが吉川区で講演

上越市議会日本共産党議員団主催の講演会が16日、吉川コミュニティプラザでありました。今年の新潟県政の最重要課題のひとつであり、上越市民を含む新潟県民の命と暮らしを守るうえでも大きな影響を与える柏崎刈羽原発の再稼働問題について新潟大学名誉教授の立石雅昭さんから講演していただきました。市内から約50人が参加しました。

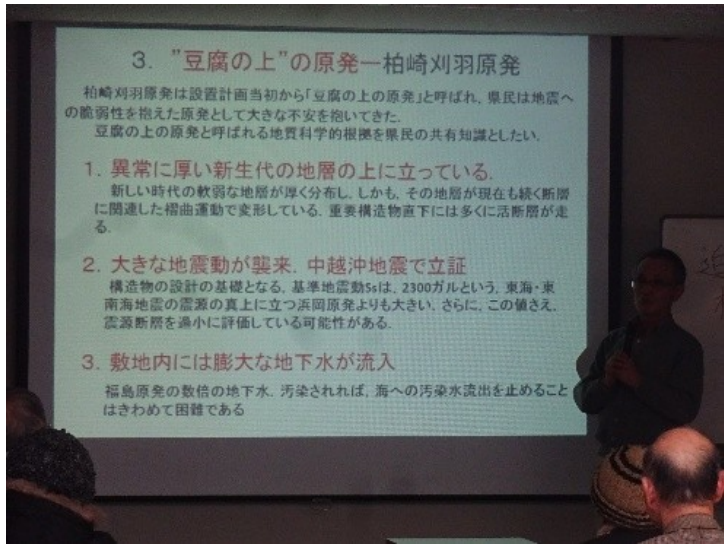
これまで同教授の講演は2回聴いていますが、今回もぐいぐい引き込まれる内容でした。講演では、福島現状、規制委審査の動き、防災避難計画、知事選の重要性などを語られました。柏崎刈羽原発独自の危険性を掘り下げた部分です。会場は静まり返りましたね。

同教授は、同原発が異常に厚い新生代の地層の上に立っていること、中越沖地震で立証されたように、大きな地震動が襲来する可能

性があること、福島原発とは比較にならないほどの大量の地下水が原発敷地内にあることなどを指摘しました。

設置計画が出てきた当時から、同原発が、「豆腐の上の原発」だと言われていたということは昨晩初めて知りました。この言葉は立石先生のつくりだされた言葉だと思っていました。どうあれ、同原発の危険性を表すどころか、陸の部分だけでなく、海を含めて、新潟の地下はズタズタになっているとの指摘も新鮮でした。

講演では、規制委の仕事の中では、福島事故の根本的な要因の分析がほとんど進んでいないこと、事故によって住民がどうい被害を受けるかという分析がないことなど明らかにされました。再稼働は絶対許せないことを再確認できた講演となりました。



県委員会が原発で政府交渉

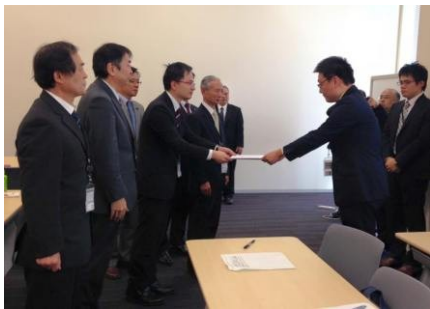
日本共産党新潟県委員会は14日、原子力規制庁、内閣府、経済産業省に対して原発問題で要請を行いました。

要請内容は、①柏崎刈羽原発を再稼働させないこと。「新規制基準」を抜本的に見直すこと、②実効性ある避難計画にすること、③「原発ゼロの新潟」「原発ゼロの日本」をめざすことの3項目でした。

要請に対して関係機関は、「法体系上、避難計画は自治体がつくることになっている。基準に合致した原発は再稼働する方針だ」

「2030年に電力の20~22%を原発でという『エネルギー基本計画』は、何基を動かすと想定して出した数字ではない」など、全く無責任な答弁に終始しました。

写真は、要望書を手渡す西澤ひろし参院予定候補、渋谷明治県議、五位野和夫柏崎市議、池田力刈羽村議などです。



暖冬が続いていますが、先日、大島区で「醤油の実」づくりをしているところを見せてもらいました。大きな火鉢型の石油ストーブの上に鍋を載せて豆を煮ていて、とてもいい匂いが漂っていました。「醤油の実」づくりは寒の時期にするのが一番いいのだそうです。



【アリドオシ】アカネ科の常緑低木です。漢字で「蟻通し」と書きます。春に白い花を咲かせます。写真は赤い実。別名は「一両」。「千両万両有り通し」と言われる縁起物です。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1741 2016.1.24

発行・編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL http://www.hosei.jp/



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
←こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第三八九回

美しい料理

川谷冬まつりの懇親会が始まる少し前、折りたたんだ長テーブルの上に次々と手づくりの料理が運ばれてきました。私の席の周辺の人たちから、「わー、きれい。美味しそう……」と歓声があがったのは薄切りしたニンジンと赤いカブなどの酢ものが出されてきた時でした。

白いカブと皮と言ったらいいのか表面が赤い赤カブ、それにニンジンの橙色（だいたいいろ）だけでも、とてもいい色の組み合わせになっていたのですが、わさび菜の緑色も加わったことで、ぐーんと美しさが増しました。私もきれいだなと思いました。

この料理はいつとき話題をさらいました。長テーブルのそばに座った男性陣からは、「この紅白がいいね」「これはニンジンと葉っぱだろうか、それともパセリかねえ」などといった声が出て、とても賑やかになりました。その場で見るだけではもったいないと思ったのでしよう、私だけではなく、何人も人が写真に収めました。

言うまでもなく、会が始まってからも料理のことが話題になりました。

この日、出された料理は、大根とニンジンを手切りにした酢もの、鉄砲漬け、鞍掛豆（くらかけまめ）を使ったひたし豆、塩茹でしたムカゴ、雑煮、自然薯を蒸かし、しばって丸めた団子などです。いずれも手のかかるものばかりで、みんなびっくりしていました。

私は一つひとつの料理を口にする前に、すべて写真に撮りました。長テーブルの上に出されたときの状態を記録しておきたかったからです。カメラを向けてみて、改めてすごいなと思ったのは、どの料理も美味しさを追求するだけでなく、美しさを意識したのになつていました。

例えば、大根とニンジンを手切りにした酢もの、橙と白の食材に混じって、細く切った柚子（ゆず）の黄色がバランスよく入っています。鉄砲漬けは、白瓜の種の部分をくりぬいて、そこにミョウガ、昆布、それに拍子木切りの橙色のニンジンが入っていました。これら二つの料理では、柚子の黄色とニンジンの橙色がともに美しさを感じさせる大きな要素になっていました。また、自然薯を使った団子は、蒸かした芋をラップで何かでしばって丸め、その上に茹でたムカゴを一個置くという凝りようです。見事な出来栄でした。

懇親会が始まってまもなくして、この冬まつりでは欠かせない餅つきが行われました。三本の杵を使った三人搗（さんにんづき）です。ひと臼目は金治さん、一志さん、隆二さんのベテランが手本を示し、ふた臼目は、今後、地域を背負っていくであろう若い人たち、三臼目は来賓などがつきました。

ひと臼目がつき終わってから五分ほど後に、つきたての餅が入った雑煮を若い三浦さんなどが運んできてくれました。白い容器に入った雑煮には、大根、ゴボウ、ネギなどが入っています。雑煮は毎年好評で、今回も「もともと雑煮らしい雑煮だよ。美味しー」という声が出ていました。この雑煮もよく見るとネギの黄緑色がいい役割を果たしていました。

今回の冬まつりを契機に、私はここひと月ほどの間に合った美しい料理のことを思い出しています。板倉区久々野で馳走になったサツマイモはクチナシの実を使って黄色を一段と輝かせていましたし、大島区菖蒲でいただいたかっこいいハリハリ漬けも忘れることができません。しばらく、料理の美しさが気になりそうです。

ガス水道工事談合事件、新潟地裁で第4回口頭弁論開かれる

14日、新潟地裁で上越市ガス水道局所管の本支管工事における談合に係わる事件の第4回口頭弁論が行われました。上越市内から原告団など約20人が口頭弁論を傍聴に出かけま

した。

口頭弁論は今回も原告側提出資料をめぐって、裁判長と被告側、原告側代理人（弁護士）とのやりとりが中心でした。このなかで、裁判長から談合の日時、場所だけでなく当事者をもっと具体的に示せないかと原告側に注文がありました。原告側弁護士は努力すると約束しました。

次の口頭弁論は2月22日午後2時からです。カットは口頭



弁論後、原告などにやりとりの内容などについて説明する弁護団です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月13日(水)	1月20日(水)
上越南消防署	0.040	0.050
上越北消防署	0.043	0.053
新井消防署	0.043	0.053
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.043	0.060
東頸消防署	0.050	0.060
高士分遣所	0.050	0.063
名立分遣所	0.053	0.050



雪の中でも訴え

15日朝、戦争法廃止をアピールするスタンディングが浦川原物産館近くの国道沿いで行われました。

同所での行動は今回で17回目。初めて雪の中でのアピールとなりました。参加者はドライバーから応援をもらい、元気に行動しました。次回は25日です。